

患者様とご家族の皆様へ

自治医科大学移植外科では2001年5月より小児患者さんに対して生体肝移植を開始し(2010年に小児脳死肝移植実施施設認定取得)、2017年1月より成人患者さんに対する生体肝移植を開始しました(2022年に成人脳死肝移植実施施設認定取得)。2021年12月までに326例の小児生体肝移植(分割ドミノ肝移植1例含む)と5例の小児脳死分割肝移植、32例の成人生体肝移植を行ってきました。

2019年4月に消化器・一般外科と合併して消化器一般移植外科となったことをきっかけに、肝移植の経験をもとに、2021年より膵臓移植プログラムの準備として院内調整、院内勉強会を開始し、2022年に膵臓移植実施施設の申請を行いました。そして同年5月18日に膵臓移植実施施設に認定されました。当院は2011年に脳死小腸実施施設に認定されていますので、膵臓移植施設の認定によって腹部臓器(肝、小腸、膵、腎)すべての臓器移植が可能となり、日本で有数の移植施設になりました。

膵臓移植はインスリンを産生する能力が全く枯渇した1型糖尿病の患者さんが対象となります。膵臓移植を受ける約80%の患者さんは、糖尿病によって慢性腎不全となり、透析も受けていますので、基本的に膵腎同時移植の適応となります。このような患者さんは生命予後が思わしくなく、膵腎同時移植によって生命の延長が期待できます。

膵臓移植の適応評価に関しては、内分泌・代謝科や腎臓内科、腎臓外科、循環器内科、眼科、神経内科と密に連携を取りながら診療を進め、周術期管理においては、移植外科医のみならず、移植コーディネーター、薬剤師、感染制御部と日々カンファレンスを行っており、専門性の高い診療を行っていく予定です。また腎臓移植は当院の腎臓外科と協力して行っております。

このように自治医科大学附属病院は移植医療を行う施設として、日本有数の施設であると自負しております。さらに、長期滞在用の施設(構内住宅)もありますので、遠方の患者様においても受け入れの体制が整っています。

1型糖尿病の患者さんはぜひ一度当院で膵臓移植のお話を聞いて頂ければと思います。適切なタイミングで膵臓移植が実施できるように管理させて頂きます。なお、1型糖尿病以外の患者さんも気軽にご相談頂ければと思います。

詳しくは当科ホームページ(<http://www.jichi.ac.jp/transplant/index.html>)を参照してください。

2022年12月

自治医科大学附属病院移植外科科長 佐久間康成